



# 道総研【農学】分野 研究職に関心をお持ちの皆様

道総研には幅広い専門分野での活躍フィールドがあります。詳しくは【道総研 業務説明会】で！  
**農学、畜産、酪農、環境、生物**等を専攻されている皆様のご参加をお待ちしています!!

【道総研 農業各研究分野での取組事例】

## 作物開発分野



### 主要農作物(米・麦・豆など)の育成

ゆめぴりかのほか北海道で生産される米・麦・豆・馬鈴しょなどの品種開発を行っています。

## 畜産分野



### 優良黒毛和種雄牛「勝早桜5」の育成

肉量、肉質、子牛の発育及び娘牛の体型に優れた種雄牛を育成しました。

## 生産技術分野



### 真冬に暖房なしで葉菜類を生産する技術

厳冬期の北海道で暖房を使わずに葉物野菜を生産する技術を開発しました。



### 土を凍らせて、生産力をアップする技術

雪を踏みつけたり、取り除いて土を凍らせると、翌春の作物の生育によりになり、収量が増加することを明らかにしました。

## 農業システム分野

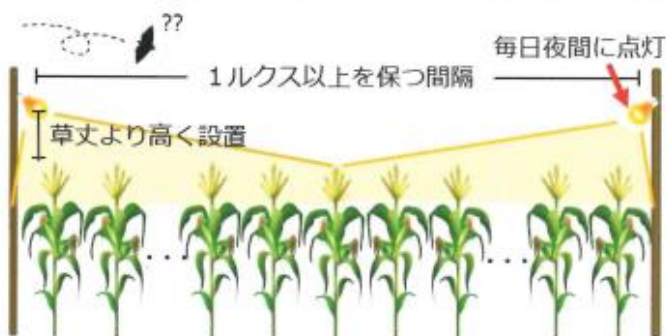


### GPSガイダンスシステムに読みませ実行可能

### ITを使った可変施肥技術の開発

車載型・人工衛星搭載などの生育センサにより取得されたデータから可変施肥を実行するシステムを開発しました。畑輪作において基肥にも追肥にも活用できるシステムです。(民間企業との共同研究)

## 病虫分野



### 黄色LEDでスイートコーンを夜行性ガ類から守る

スイートコーンに被害を与える夜行性のガ類(アワノメイガやオオタバコガ等)に対して、黄色LEDを夜間に点灯することによって、農薬を使わずに食害の発生を抑制できました。

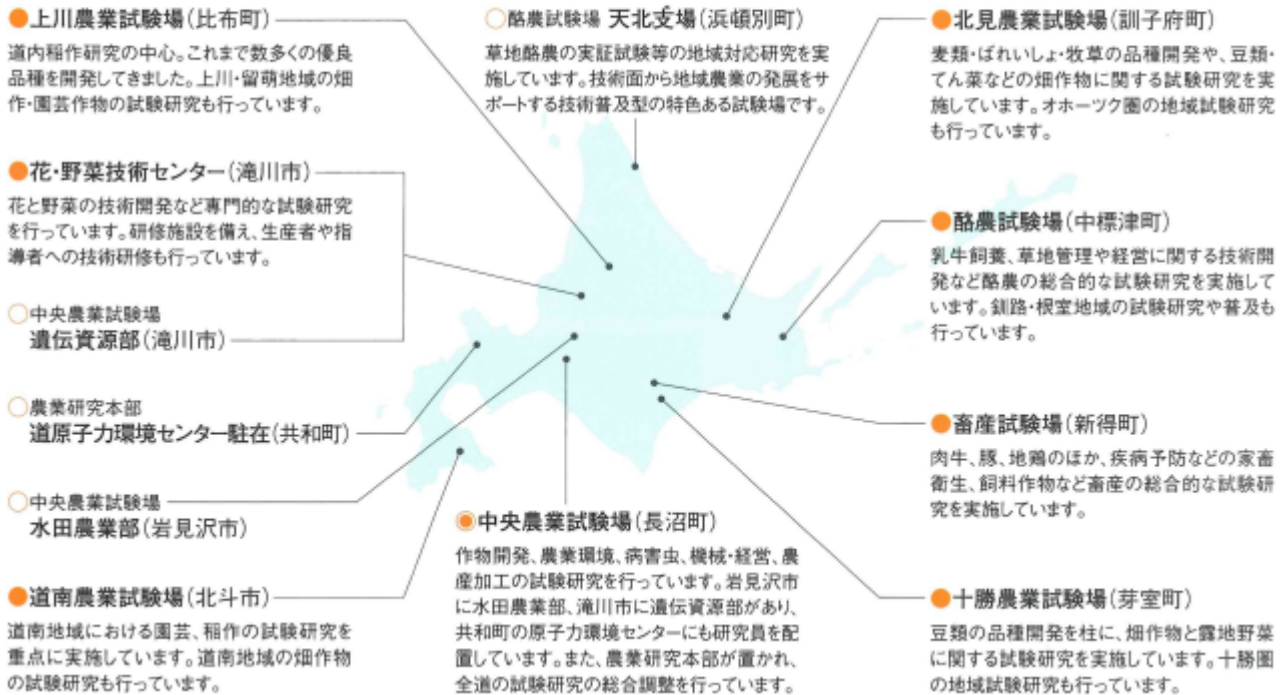


# 農業研究本部

北海道の各地域に適した作物や栽培技術の開発、家畜の育成や飼養技術の開発、食の安全やバイオテクノロジーに関わる試験研究などを行っています。

## 組織機構

● 研究本部設置場所



## 最近の主な研究開発

- 「日本一の米どころ北海道」の実現へ向けた 水稲新品種の開発促進(上川農業試験場ほか R2~R6)**  
優良食味・多収・低コスト・省力栽培など、他産地より優れた品種の育成や栽培技術の開発をすることで「日本一の米どころ」を目指します。
- パイプハウスにおける環境および養分制御による省力多収技術の開発(道南農業試験場、花・野菜技術センターほか R2~R4)**  
農作業の省力化・生産性向上に向け、主にトマト栽培のパイプハウスにおけるモニタリングと環境制御・養分制御技術を開発しています。
- リモートセンシングと圃場情報を活用した 干湿害多発農地の診断手法の開発(中央農業試験場ほか R3~R6)**  
人工衛星に搭載された光学センサによる観測データと圃場情報を活用して、農地の干湿害リスクを診断する手法を開発しています。
- 北海道の気候に適した牛舎の機械換気システムの開発(酪農試験場ほか R3~R5)**  
大規模牛舎において、乳牛の暑さや寒さのストレスを最小限とする機械換気の方法を開発しています。
- 気象データを活用したバレイショ疫病の初発前 薬剤散布指示システムの開発(道南農業試験場ほか R3~R5)**  
重要病害の疫病を対象に、気象情報を活用した高精度な病害発生予測技術を開発しています。
- 多品目の露地野菜の収穫に対応した コンベヤキャリア式収穫体系の確立(中央農業試験場ほか R4~R6)**  
かぼちゃなど重量野菜の収穫を省力化するため、比較的低コストで導入できる機械を活用した作業体系を開発しています。

